

## 令和5年第1回東北町議会定例会会議録

令和5年3月7日（火曜日）午前10時00分開議

### ○議事日程（第2号）

#### 日程第1 一般質問

---

本日の会議に付した事件

#### 日程第1 一般質問

---

### ○議長（岡山粕男君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問の通告は4名であります。

通告順に発言を許します。

2番、斗賀高太郎議員は、一問一答方式による一般質問です。斗賀高太郎議員の発言を許します。

〔2番 斗賀高太郎君登壇〕

### ○2番（斗賀高太郎君） 皆様、改めましておはようございます。2番、斗賀高太郎です。

質問に入る前に、町民の皆様へご挨拶とお礼を申し上げます。昨年9月に行われました選挙にて、初当選させていただきました。誠にありがとうございました。今後は町勢発展のため、そして町民の皆様の声を議会へ反映させていけるように精いっぱい取り組んでまいります。

また、初めての一般質問で若干緊張しておりますが、拙い部分もあるかとは思いますが、建設的な議論となるよう取り組んでまいりますので、皆様、よろしく願いいたします。

では、通告に従い一問一答方式にて質問に移らせていただきます。本日私からの質問は、大きく分けまして3事項、6つの質問をさせていただきます。初めに、東北町の知名度向上と町外からの集客の取組についてです。1、商工会や地域商店街と連携して、イベントや商店街活性化に向けた新たな取組は何かお考えでしょうか。

2、産業文化まつりや日の本中央まつり等のイベントにて、地元食材を活用した地元一輪グランプリや、トラクターやフォークリフト等の産業車でタイムレースなど、楽しみながら地元や産業について知ることができそうなコンテンツ強化は何かお考えでしょうか。

3、現在利用者が少ない、もしくは収入が見込めておらず、管理費がかかってしまっている町営スキー場や浜台、清水目ダムのキャンプ場などに多くの方を集客し、収益化する取組は何かお考えでしょうか。

続きまして、特産品等の開発についてです。1、ふるさと納税等の返礼品として活用できる特産品の商品開発は何かお考えでしょうか。

2、牛乳でスマイルプロジェクト等にて牛乳消費拡大に取り組んでおられますが、生乳を活用したチーズやプリン、ヨーグルトなど、加工品の開発は何かご検討されていますでしょうか。

最後に、1次産業の発展に関するPRの取組についてです。町内の業者や農協、漁協、道の駅と協力し、ライブコマースと言われるライブ配信で全国や世界の消費者へ宣伝、購入してもらえるシステムを活用するなど、消費拡大につながる取組は何かお考えでしょうか。

以上、3事項、6つでございます。よろしくお願いたします。

○議長（岡山粕男君） 町長。

〔町長 長久保耕治君登壇〕

○町長（長久保耕治君） 皆さん、改めましておはようございます。それでは、2番、斗賀高太郎議員のご質問にお答えをいたします。

一般質問通告のありました質問事項1の東北町の知名度向上と町外から集客の取組についてお答えをいたします。質問要旨の1点目、商工会と観光協会が地域商店街と連携して、イベントや商店街活性化に向けた取組はお考えでしょうかについてであります。従来より上北町商工会並びに東北町商工会の両商工会へ商店街のにぎわい対策事業として、コロナ禍になる以前は、夏祭り、ドリンクスタンプラリー、盆ナイトカーニバルなどを開催し、また近年のコロナ禍においては感染状況を考慮し、趣向を変えてオータムフェスティバル、飲食店スタンプラリーや年末年始大売出し、旧正月まける日など、様々な事業を行っており、その事業に対し、町としては商工業活性化事業補助金を交付して支

援をしております。今後についても両商工会と協議などを重ね、商工会の活性化に取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、質問要旨の2点目、産業文化まつりや日の本中央まつりのイベントのコンテンツの強化として、地元食材を活用した地元—1 グランプリやトラクター等の産業車でのタイムレースなどに取り組むことはお考えでしょうかについては、トラクターなどのタイムレースの安全上の問題や会場の諸問題について、実施可能かどうかをこれから調査してまいりたいと考えておりますので、ご理解を願いたいと思います。

また、地元食材を活用した事業といたしましては、東北町宝湖活性化協議会が令和元年度から始めておりますしらうお井まつりがございます。実績を少し紹介させていただきますと、令和元年度は419食、2年度が1,158食、3年度1,492食の提供があり、うち8割の方が町外からのお客様と伺っております。

さらには、同協議会主催の美味満彩祭りを本年度は3年ぶりに開催し、小川原湖漁業協同組合によるシジミのすくい取りや、共催の東北町物産協議会会員でありますゆうき青森農協の町産牛の販売をいたしましたところ、長蛇の列ができ、大盛況となりました。

加えて、今年度開催されました生き生き産業文化まつりにおいて、東北町観光協会による地元食材の長いもとニンニクを活用した航空自衛隊東北町分屯基地考案の「長芋ハーブ空上げ」を分屯基地の協力、応援の下で販売をいたしましたところ、2日間で400食が完売となり、好評でございました。

このように、地元食材を活用、PRする事業を幾つか行ってきております。今後も継続することはもちろんですが、折に触れ、検証やご意見を伺いながら取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと存じます。

続いて、質問要旨の3点目、現在利用者が少なく、維持管理費が多くかかっている町営スキー場、浜台や清水目ダムキャンプ場などに多くの方を集客し、収益化する取組はお考えでしょうかについてはありますが、ここ数年間はコロナ禍の影響で密回避の傾向と、マスメディア並びにSNSの影響でアウトドアブームとなり、逆に利用者が増加傾向となっております。

町といたしましては、そのような増加傾向となっている状況を追い風と捉えて、令和5年度はわかさぎ公園で開催される東北町商工会青年部主管のいかだ

レースに著名人をゲストとして招待し、参加していただきながら、イベントはもちろん、キャンプ場も含めた町のいろいろな場所のPRも兼ねて、ゲストの方へもお願いをしてSNSなどで拡散していただき、周知することにより、さらなる町への集客を図りたいと考えております。

加えて、今年度の基本方針で申し上げましたとおり、ふれあい村ケビンハウス等の改修工事を実施し、観光施設の整備、充実を進めてまいります。

一方、ご指摘の収益化についてですが、現在わかさぎ公園浜台キャンプ場と清水目ダムオートキャンプ場の2か所は、小川原湖公園キャンプ場のような協力金などをいただいているのが現状であります。今後は、指定管理も含め、収益化について様々な角度から十分に調査、把握し、考えていきたいと思っております。

なお、質問に関連すると思いますので、各施設の詳しい利用者数につきましては、後ほど商工観光課長より補足説明をさせていただきますので、ご了承願います。

次に、質問事項2の特産品等の開発についてお答えをいたします。質問要旨の1点目、ふるさと納税の返礼品として活用できる特産品の商品開発はお考えでしょうかについてであります。現在町が登録しているふるさと納税サイトにおいて、令和2年4月1日現在では44品目の登録があり、令和2年度は17品目の新規商品の登録、3年度は21品目の新規商品の登録、4年度は6品目の新規商品の登録をいたしております。町としては、今後さらなる魅力ある商品開発や発掘に取り組んでまいりたいと考えております。

続いて、質問要旨の2点目、牛乳でスマイルプロジェクトなどで牛乳消費拡大に取り組んでいるが、生乳を活用したチーズやプリン、ヨーグルトなどの加工品の開発は検討されていますかについてであります。加工品の開発については、令和4年度からチーズ製造などに興味のある地域おこし協力隊を2名募集しており、問合せが数件ありましたが、正式な応募がない状況でございます。令和5年度においても、引き続き継続して募集をしてまいりますので、ご理解願いたいと思っております。

重ねて、商品開発についてですが、地域おこし協力隊を中心としながらも、様々な関係団体や町民の皆さんからもお知恵をいただきながら共に考え、加えて町としてできることがあればサポートしてまいりたいと考えておりますので、

ご理解を賜りたいと存じます。

次に、質問事項3の1次産業の発展に関するPRの取組についてお答えをいたします。質問要旨の町内の業者や農協、漁協、道の駅と協力し、ライブコマースと言われるライブ配信で全世界の消費者へ宣伝、購入してもらえるシステムを活用するなど、消費拡大につながる取組はお考えでしょうかについてであります。町特産品の消費拡大のためには、やはり消費者の皆さんへ積極的に情報を発信していくことが重要であるとは考えております。このため、私自身時間の許す限り他地域での特産フェアに参加するなど、対面での販売促進に力を入れているところであり、令和4年度は11月に東京で開催された2022青森人の祭典in上野公園に参加したほか、10月には町独自の新たな取組として、千葉県内のJAと提携し、県内2か所の農産物直売所で東北町産フェアを開催いたしました。今後とも特産品を積極的にPRし、認知度の向上と消費拡大に努めてまいりたいと考えております。

なお、議員ご指摘のライブコマースなどのオンラインを活用した非接触型の販売促進についても、国内外の幅広い消費者にPRできるという点で非常に重要な手法であると考えているところですが、まずはできるところから始めてみようと思ひ、令和5年度は町公式ユーチューブを活用した特産品のPRを実施したいと考えておりますので、ぜひ議員の知見もお借りし、さらなる町特産品の消費拡大につなげてまいりたいと存じますので、ご理解願います。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（岡山粕男君） 商工観光課長。

○商工観光課長（和田真悦君） それでは、わかさぎ公園浜台キャンプ場及び清水目ダムオートキャンプ場及び町営スキー場の利用人数について補足説明いたします。

わかさぎ公園浜台キャンプ場の利用者は、平成30年度年間786人、1日当たり6.5人、令和元年度1,226人、1日当たり10人、令和2年度1,702人、1日当たり14人、令和3年度1,249人、1日当たり10人、今年度は1,724人、1日当たり14.5人となっております。

また、清水目ダムオートキャンプ場の利用者は、平成30年度106人、1日当たり0.9人、令和元年度175人、1日当たり1.5人、令和2年度319人、1日当た

り2.5人、令和3年度140人、1日当たり1.2人、今年度239人、1日当たり2人となっておりです。

また、参考までにおがわら湖公園の利用者は、平成30年度年間1万6,111人、1日当たり77人、令和元年度1万7,451人、1日当たり83人、令和2年度1万1,711人、1日当たり56人、令和3年度1万8,836人、1日当たり87人、今年度は7月からオープンしておりましたので、1万105人、1日当たり84人となっております。

スキー場に関しては、例年年間1,500人程度、1日当たり17人の利用者となっております。

以上、補足説明といたします。

○議長（岡山粕男君） 斗賀議員。

○2番（斗賀高太郎君） 質問1の（1）について再質問させていただきます。

実際に旧正のまける日や、先ほど言ったスタンプラリー等の既存の事業であったり、あとは今年始めたお買物バス等の新たな取組も非常によかったのかなと思います。ですが、町民利用者からの声であったり、参加加盟店からの要望など、改善点をアンケート等で聞き取り、把握し、町主体での新たな事業や現在の事業の見直しを考えていかなければいけないのかなと感じますが、こちらはどうかお考えでしょうか。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 斗賀議員にお答えをいたします。

緊張しているかと思うのですが、少し肩の力を抜いて一緒にいい議論していきましょう。今ご指摘いただきました。まさにそのとおりだと思います。そういった中で、とりわけ交流バスは試験的にやらせていただいているという中で、本運行に向けてアンケートを取って、どういった形をしていくのがいいのかなというふうにも思っておりますし、また両町の交流というものをちょっとメインにしてしまった部分があって、交流のみでしか乗れないのかというふうな町民からのご意見もありました。よりよい買物バス、足として使えるバスとして使っていただくための提案も、これからユーチューブ等でさせていただきたいなと思っております。

また、議員ご指摘のように、スタンプラリー、まける日、まさにこれは町が

こういうふうにやってくれといったことではなくて、両商工会が一生懸命考えて、商工会、商工業活性化のためにやっている事業だと思っております。皆さんの中で、今のこの令和の時代、まさにアフターコロナ、今度はどのような事業をしていけばいいのかというのを商工会の皆さんで話し合っていて、自分たちがこういうことをしたいのだと、だから町で何とか支援してくれないかという、そういった建設的な意見があれば、町としてはどんどん、どんどん支援してまいりたいと思っております。

やはり自助努力というのが大変大事になってくると思いますし、また商工会でそういった活動、いわゆる活性化というものは町民の方々も大変期待していますし、行政側としても本当にそういう意味では皆さんにご期待を申し上げておりますので、皆さんの様々なアイデアをどんどん、どんどん町のほうにぶつけていただければと思います。町は、それにしっかり応えてまいりたいと思いますので、ご理解願いたいと思います。

以上でございます。

○議長（岡山粕男君） 斗賀議員。

○2番（斗賀高太郎君） 実際今回の交流バスに関しましては、飲食店等ではすごく好評だったと伺っております。でも、小売店のほうの方々などは、やっぱりお買物バスはそんなに小売店業に影響がなかったという声も届いておりました。利用した方々の満足度と、あとは各地域の商店街の方々の声を聞きながら、町、商工会が一体となり、活性化に向けて取り組んでいただければなと思います。

続きまして、質問2に対する再質問をさせていただきます。実施可能か調査検討していただけるとのこと、大変ありがとうございます。やはり地域で盛んである1次産業に活用されるトラクターなど、実際動いている場面を目にする機会は、農家さんの子供さんでなければあまりないのかなと思いますので、トラクター等でレースすることで目にしてもらいながら、そして楽しみながら学べるイベントにしていくこと、そして東北町テレビでコンテンツとしてもすごく魅力あるものなのかなと感じますので、ぜひ実現に向け、ご検討いただきたいです。

また、先ほどお話しいただきました「長芋ハーブ空上げ」以外にも、新しく

地元食材を活用してイベント等で提供する商品などは、何かご検討されていらっしゃいますでしょうか。よろしく申し上げます。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） お答えをいたします。

まず、私どもで考えておりますのは、今はまだ地域おこし協力隊の方々がちよっとそろっていないという部分なのですが、やはり町特産の牛乳を使ったチーズなどの乳製品をうまく製造して、いろいろ普及していきたいなというのは1つ考えております。

今回そういう意味で、「長芋ハーブ空上げ」というのが、今いろんな自衛隊の方々がそういった空上げ等、いろんな地域でやって、とりわけ東北町においては長いもを使った、特産品を使ったもの、そういうふうにご提案してくれて、それが好評だったと。ぜひこれの普及に向けて関係機関から協力をいただいて、町としても後押ししていきたいと思っております。

また、そのほかに町としては、これは道の駅さんに協力をしていただいて、ガニ汁うどんだったり、牛バラ焼き定食であったり、また今年はちょっと11月に小川原湖のほうで、報道でもされているようないろいろ難しい問題があったということで、道の駅のほうで小川原湖セットということで、シラウオを安全に食べる方法をコンテンツの一つとして提案をして、大変好評だったというのを、昨日取締役会がありまして、そういう意味でそこでご説明をさせていただきました。

斗賀議員がおっしゃっているように、例えばそういった特産品を使って、いわゆる主食ではなくて、例えばデザートとか、そういったことも考えていかななくてはならないと思います。そういう意味では、今回乳製品でチーズというものを先駆けてやろうと思っております。そこから例えばヨーグルトであったり、プリンであったり、バターであったり、私もいつかテレビで見たのですが、そういったバターにいろいろな町の特産品を織り込んで、様々バターの味を楽しめるような、今そういった取組をしている自治体もあると伺っております。

まず、スタートラインに立つことが私としては地域おこし協力隊に来ていただくことだと思っております。やはり町の中ではそういったことをやるの



であるならば、こういった面白いのもあるのではないかなと言ってくれる方がいらっしゃるのであるならば、そういった意見を踏まえて、一つマニュアルのような形で作成をしながら、地域おこし協力隊の方々が来た際にそういうふうなことをやっていくような形も考えてまいりたいと思っております。

いずれにせよ、皆さんがどんどん、どんどんアイデアを出してくれることが町を前に進めることになっていると思いますので、議員にもぜひ協力をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 斗賀議員。

○2番（斗賀高太郎君） やはりイベントや道の駅というのは、町外からも多くの方が来られる場ですので、町内産の食材をPRする絶好の場所だとは思いますが。また、町内飲食店などと連携、協力いただき、新たな商品開発などに取り組んでいただければなと思います。

また、イベントに関してですが、日の本中央まつりに関しましても、各地域の方々から、乙供地区だけのお祭りなのではないのなんていう声も届いているため、地域全体が参加している上北地区の秋まつりなどを参考にしながら、東北地区全体が一緒に参加できるよう、教育委員会や学務課とお話をしながら、スクールバス等でご協力いただいたりとかという形で取り組んでいただければなと思います。よろしく願いします。

続いて、施設利用などに関する再質問でございます。スキー場に関してですが、現在利用者ということで1,600人弱で利用されているということだったのですが、そり等も同じ場所で使用されておりますが、傾斜の問題等、安全管理に関しては、私も利用させていただいて、若干不十分なのかなと感じておりますが、そちらに関してはどうお考えでしょうか。

また、使用料に関しましても、現在400円程度だったと思いますが、スキーとスノーボードはけがも多いスポーツのため、1日スポーツ保険等に加入してもらい、その分使用料の値上げなど、ご検討されてはいかがでしょうか、よろしく願いします。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 斗賀議員にお答えをいたします。

様々ご提案をありがとうございます。本当にスキー場に関しては、そりは小さいお子さん方が乗るということで、またスキー、スノボでも大変スピードが出るような傾斜でもあるので、確かに危ないというのは指摘もあると思います。では、そり乗り場を違うところに造りましょうということになるとしても、管理人が必要になったりとか管理の部分、むしろ安全面についてどのように対策を打っていったらとかということ、違う問題が出てくる部分もあると思います。

しかしながら、やはり今年の場合は、特に野辺地のスキー場がちょっとリフトが土砂崩れの問題で使えないということで、近場の町のスキー場等でそりとかを楽しんでいる親子連れの方々もいらっしゃると伺っておりました。来年に向けてになるかと思いますが、今シーズンはもう若干終わりぎみになってきましたので、ちょっと矢継ぎ早な感じは、ていはあるのですけれども、同じスキーを乗る場所にそりに乗るブースを設けて、そこを柵とかで区切って、そりに乗るところとスキー、スノボに乗るところを分けて対策をして、同じ場所でありますと管理人がしっかり目の行き届くところだと思いますし、あそこの公園は大変広くて、そりに乗るところを別なところに造るという案もなきにしもあらずなのですが、やはり安全性を考えるとそういうふうにして、まずは様子を見るということが現実的ではないのかなと思っております。

また、議員が今ご提案されたスポーツ保険、まさにいわゆる保険というインセンティブを設けて、ちょっと使用料を上げるということは大変いい提案だと思っておりますし、ぜひ検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（岡山粕男君） 斗賀議員。

○2番（斗賀高太郎君） ありがとうございます。一部提案ベースにはなりますが、先ほどのそりに関してですが、まなかのかやぶき屋根のある場所に、雪を緩い傾斜で、そり乗り場を無料開放して、無料コースを設置してあげるというのも一つかなと思います。また、町営スキー場、現在圧雪車等は導入されていないということで、やはり圧雪することでけがのリスクは減らせるのかなというところ、あとは先ほど町長にもお話しいただきました安全柵だったり、防護ネットという部分で分けをして、初級者コース、上級者向けのコース分けなど整備をして利用者のニーズに応じていくことで、利用料が高くても集客化す

ることは可能なのかなと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 斗賀議員にお答えをいたします。

まず、圧雪車の部分ですが、やはりスキー場の規模から考えますと、B/C、いわゆる費用対効果の部分でいくとちょっと難しい部分ではありますが、いろいろと積算をしてみなければ詳しくは分かりませんので、ちょっとお時間をいただければと思います。

また、かやぶき屋根のほう、まさにあそこの公園は大変広くて、いろいろ活用できる部分があるかと思います。先ほども申し上げましたが、かやぶき屋根のところ、そこにそりに乗るところを造ることになりますと、やはりそこには管理人が必要になってくるのではないのかなと思います。特に小さなお子さんたちがそりに乗ることですので、やはりしっかり管理人がいて、いろいろ指導しなくてはならないということが必要になってくると思いますので、その経費の部分からいくと、なかなか今の現状では難しいのですが、またいろんなコンテンツをスキー場に取り入れることによって集客が図れて、いよいよそりというものをまた別なところにちゃんと造らなければ、安全性の面で問題があるということも出てくる場合もあるかと思います。状況に応じて、しっかり対処してまいりたいと思っております。

あとは、先ほど申し上げたスキー場の安全面でいくと、やはり上級者の方と初級者の方を分けて、いわゆる滑るコースを分けたほうがいいのではないかなという今ご提案いただきましたけれども、スキー場そのもののメインのバーンのところが他のスキー場に比べると若干狭い部分があったりもします。分けることによって、そりと上級者と一般のというふうに分けてしまうと、逆にコースが狭くなって、ちょっとそれはそれで危険なところも出てくるのかなというのがありますので、様々な角度から考えてみて、斗賀議員が今おっしゃっていることを総じて言うと、やはりあのスキー場、もっともっと利用価値を高めていくことができないのかということに尽きると思うのです。

そう考えたときに、やはりもう一度我が町のスキー場、今スノーボードだったり、スキーしに来るお客さんたちも、オリンピックとか、日本がそういった種目で金メダル取る方も多くなってくると、これからそういったアウトドアの

部分も相まって増えてくる可能性もありますので、いろいろな方々から提案を  
いただいて、また斗賀議員も聞くところによると、そういったウインタースポ  
ーツなかなかお詳しいというふうに向っておりましたので、いろいろとご提案  
していただければありがたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願  
いいたします。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 斗賀議員。

○2番（斗賀高太郎君） 管理人の問題やコースが狭くなってしまふなど、い  
ろいろ問題があるとは思いますが、前向きにぜひご検討をよろしくお願  
いします。

また、現在使用料は取っていないと言われておりました清水目ダム、浜台の  
キャンプ場等に関しましても、先ほどお話もいただきました指定管理等含め、  
地域の希望事業者や団体などで指定管理を行って、そうなるとやっぱりネット  
予約の導入だったりとか、あとはキャンプ道具の貸出し、あとはキャンプ場の  
整備など、来場者の顧客満足度というところの向上にもつながるのかなと感じ  
ますので、ぜひ官民一体となり、地域発展に取り組んでいただけるようによ  
ろしくお願いたします。

続いて、設問2の（1）についてですが、こちらは要望でございますが、ふ  
るさと納税の返礼品に関しては、私どもの同年代の子たちからは、ブランド牛  
でいいお肉を少ない量ふるさと納税でもらうよりも、やはり交雑種などの牛肉  
などでも、安価なもので量が多い返礼品があれば、ふるさと納税がしたいな  
なんていう声も多くもらっております。他自治体との差別化含め、町も主体的に  
こんな意見がありましたよなんていうのを事業者の方たちにお伝えいただき、  
ふるさと納税の商品開発にぜひ取り組んでいただければなと思います。

また、先ほど（2）の部分で質問させていただきましたバター等の生乳を使  
った取組に関してですが、地域おこし協力隊の方たちに応募してもらえるよう  
に、何かほかの町村と違う魅力づけだったり、差別化というのはどういったも  
のをされていらっしゃるのでしょうか。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） お答えをいたします。

まずは、今牛肉のご提案ありましたけれども、大変それも面白い提案だと思います。確かにいろいろな方がふるさと納税、特に返礼品に魅力を感じて納税してくれると思うのですけれども、いろいろな年代の方が選べるようなアイテムがたくさんあったほうがいいと思いますので、そういったことは斗賀議員が今ご提案されたように、町のほうでも検討してまいりたいなと思っております。本当にありがとうございます。

あと、地域おこし協力隊についてのご質問がございました。やはり私たちが地域おこし協力隊を募集するに当たって一番留意したことは、実は地域おこし協力隊とその自治体との見解の相違というのはよくあると。それはなぜかというところ、自治体がこういう思いで募集したと。応募された方が、またちょっと違った視点で来てくれて、何か自分の思いと違うからやっぱりできないと、そういったこともありますので、今回私たちは特にチーズの製造ということに絞って、チーズの製造と地域のPR、その2点に絞って、とりわけそこに力を入れて募集をさせていただくことにしました。

ですので、なかなか募集というか、手を挙げてくれる方に対しても、割と限定的な条件がついていますので、なかなか集まりにくいことはあるとしても、手を挙げて来てくれる方というのは、仕事がもう明確ですので、割と来てみて、話を聞いてみて駄目だったということは、なかなかないのではないかなと、そこら辺の見解の相違は、周りの自治体に比べてないのかなとは思っております。

実際数件の問合せがあって、企画課、担当課のほうでいろいろ説明をしている中で、うまくマッチングが今はできていない状況だというふうに伺っておりますが、そういった部分も含めてしっかり人材を精査して、期間は3年間ということですが、3年間がっちりやっていただくために、むしろこの入り口をしっかりと行うことが大事だと思っております。

いらした際には、まだ来ていないということは、まだ来るまで時間がありますので、こちらのほうでも来ていただいてしっかり頑張ってくださいような準備も着実に進めていきながら、いろいろと提案をしていただいて、またそれを今度は皆さんともんでいきながらいいものをつくってまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（岡山粕男君） 斗賀議員。

○2番（斗賀高太郎君） 応募条件等のお話、ありがとうございます。

現在牛乳でスマイルプロジェクト等で東北町の飲食店さんなどでも牛乳を使ったドリンクだったり、メニューの開発などをされているというところもあるとは伺っておりますので、町としてもこういった勢いを持って、熱量を持った業者、団体、プラス若い方だったり、応募してこられる方だったりというところを積極的にサポートしていただければなと思います。

最後に、3番、ライブコマースに関して、こちらは意見にはなりますが、町公式ユーチューブの活用も大変必要なことだと感じております。多くの方々へ届けられるよう、町公式チャンネルの登録者数であったりとか、一定数の母数というのは必要なのかなと思いますので、そちらの増加であったり、魅力的な動画の作成にも取り組んでいただければなと思います。よろしくお願ひします。

これにて私の一般質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

○議長（岡山粕男君） これで2番、斗賀高太郎議員の一般質問を終わります。